

特別支援学級の 授業づくりガイドブック 平成30年度版



新潟市教育委員会

はじめに

▶ 新潟市が目指す特別支援学級の授業づくり

このガイドブックは、日常の授業の中に「学習課題とまとめ・振り返り」が位置付き、アクティブ・ラーニングが当たり前のように行われる特別支援学級を実現するために作成したものです。

これまで新潟市教育委員会は、リーフレット「新潟市は全教職員でインクルーシブ教育システムの構築を進めます」と2つのガイドブック「個別の教育支援計画作成と活用のためのQ&A」「管理職と担任のための特別支援学級ガイドブック」を作成し、それに基づき、インクルーシブ教育システムの構築を推進してきました。



この**特別支援学級の授業づくりガイドブック**は、新潟市の目指す授業づくりについて、特別支援学級を担任する先生方のために分かりやすく解説したものです。

特別支援学級に在籍する子どもたちの学びをより一層豊かにするために、校内研修等で御活用ください。

授業づくりガイドブック目次

はじめに

➤ 新潟市が目指す特別支援学級の授業づくり

I 特別支援学級授業づくり・はじめの一步

- Q 1 特別支援学級にはどんな種類があり，その違いは？ …… 1
- Q 2 教室環境整備のポイント？ …… 2
- Q 3 特別支援学級の「特別の教育課程」はどのように編成するの？ …… 3
- ・ 3つの事例
- Q 4 時間割は，どうやって決めるの？ …… 5
- ・ 実態に応じたグループ学習の活用，交流及び共同学習
- Q 5 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」「通知票」の違いは？ …… 7
- Q 6 教科書はどのように使っているの？ …… 8
- Q 7 子ども一人一人の困り感にどのように対応したらいいの？ …… 9
- ・ 集中することが苦手なDさん
 - ・ 文字を書いたり，絵を描いたりすることが苦手なEさん
 - ・ 勝ち負けに敏感で，予定変更や周りの変化が苦手なFさん
 - ・ 自分の思いを言葉で伝えることが苦手なため不適切な行動で表現するGさん
- Q 8 連絡帳はどうしている？ …… 11

II 授業のフレームワーク

授業のフレームワークをどのように適用するか

- 【技能習得型のフレームワークの適用】 …… 12
- ・ 算数（小学校）
 - ・ 音楽（中学校） ～実態に合わせた教材の工夫，学習環境の工夫
- 【問題解決型のフレームワークの適用】 …… 16
- ・ 家庭（中学校）
 - ・ 総合的な学習の時間（中学校） ～題材と学習活動例
 - ・ 自立活動（小学校） ～自立活動の「個別の指導計画」作成
- 【単元型のフレームワークの適用】 …… 22
- ・ 生活単元学習（小学校）
 - ・ 国語（小学校） ～個別のねらいに応じた教材の工夫例
- 【資料】 個別の指導計画様式例 …… 26
- 個別の指導計画から通知票への転用例 …… 27

特別支援学級授業づくりガイドブック資料提供校

木戸小学校

小針小学校

鎧郷小学校

山の下中学校

木戸中学校

I 特別支援学級授業づくり・はじめの一歩

初めて特別支援学級の担任になった太郎先生は、知的障がい特別支援学級を担当しています。ベテランの美子先生（特別支援学級担任歴7年）は、隣の自閉症・情緒障がい特別支援学級を担当しています。太郎先生は、担任してまだ1週間、まだまだ分からないことだらけです。放課後は、美子先生のお知恵をお借りすることが多いようです。どんな悩みがあるのか聞いてみましょう。



太郎先生



美子先生



Q1 特別支援学級にはどんな種類があり、その違いは？



私の学級は知的障がい特別支援学級ですが、先生の学級の自閉症・情緒障がい特別支援学級とどう違うのですか？
学級にいる子どもからは、違いがよく分からないのですが、学級の違いを教えてください。



そうですね。対象となる子どもが違うのです。特別支援学級は7種類あるので、どんな子どもが対象になるかについては下の表で確認してください。

「教育支援資料～障害のある子供の就学手続と早期からの一貫した支援の充実」より抜粋

平成25年10月文部科学省初等中等教育局特別支援教育課

◇知的障害特別支援学級

知的発達に遅滞があり、他人との意思疎通に軽度の困難があり日常生活を営むのに一部援助が必要で、社会生活への適応が困難である程度のも

◇肢体不自由特別支援学級

補装具によっても歩行や筆記等日常生活における基本的な動作に軽度の困難がある程度のも

◇病弱・身体虚弱特別支援学級

- 一 慢性の呼吸器疾患その他疾患の状態が持続的又は間欠的に医療又は生活の管理を必要とする程度のも
- 二 身体虚弱の状態が持続的に生活の管理を必要とする程度のも

◇弱視特別支援学級

拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が困難な程度のも

◇難聴特別支援学級

補聴器の使用によっても通常の話声を解することが困難な程度のも

◇自閉症・情緒障害特別支援学級

- 一 自閉症又はそれに類するもので、他人との意思疎通及び対人関係の形成が困難である程度のも
- 二 主として心理的な要因による選択性かん黙等があるもので、社会生活への適応が困難であるもの

※ このほかに言語障がい特別支援学級がありますが、新潟市では設置していません。言語障がい通級指導教室で対応しています。

※ 特別支援学級の定数は8人です。

大切なことは、学級種が異なっても、一人一人の課題を踏まえた学びの場を提供することです。



Q2 教室環境整備のポイントは？



子どもたちが集中して学習しやすい教室にしたいと思うのですが、美子先生はどんな工夫をしていますか？



私の学級では、注意がそれやすい子どもが多いので、刺激を少なくするように心掛けています。整理整頓の苦手な子どもには、棚やロッカーに何をどう入れるのかが分かるようにモデルを示しています。どうぞ教室に来て見てください。

黒板前のスペースの活用

黒板の前は、学級全員が参加して学習したり、朝会などをしたりする場合のスペースとしています。グループ別に活動する時には、机の位置や向きを変えたり、仕切りを置いたりして、子どもが集中しやすいようにしています。

教材ブース

学習や宿題用のワークシートやプリント、振り返りカードなどを用意し、子どもが自分から取り組めるようにしています。



今日の学習予定

一日の予定がいつでも確認できると安心です。

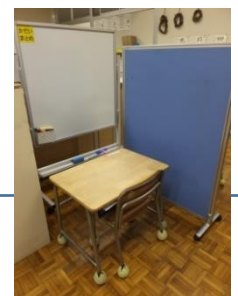


交流及び共同学習に行く時間は、色を変えたりマークをつけたりして工夫しています。



個別のブース

集中して取り組めるように、学習内容に応じて仕切りや壁を活用します。



テーブル

机

ロッカーの使い方

使い方を写真で示すなどルールをいつでも確認できるようにしています。もちろん、交流学級（※交流及び共同学習を行う際の通常の学級をこれ以降「交流学級」とする）にも、自分のロッカーがあります。交流学級での学習用具を置いています。



小集団等での学習の場

教室の後ろには、テーブルなどを置き、相談や話し合いなど小集団で学習を進める場合にも活用しています。

Q3 特別支援学級の「特別の教育課程」はどのように編成するの？

「特別支援学級の教育課程届」を教育委員会に提出するのはどうしてですか？通常の学級では、学級ごとに作っていなかったように思いますが…。



特別支援学級も、基本的には小学校、中学校の学習指導要領に沿って教育するのですが、子どもの実態に応じ「特別の教育課程によることができる」とされているからです。当該学年の教育課程とは違うのですから、どのように編成したのかを届けなくてはなりませんね。



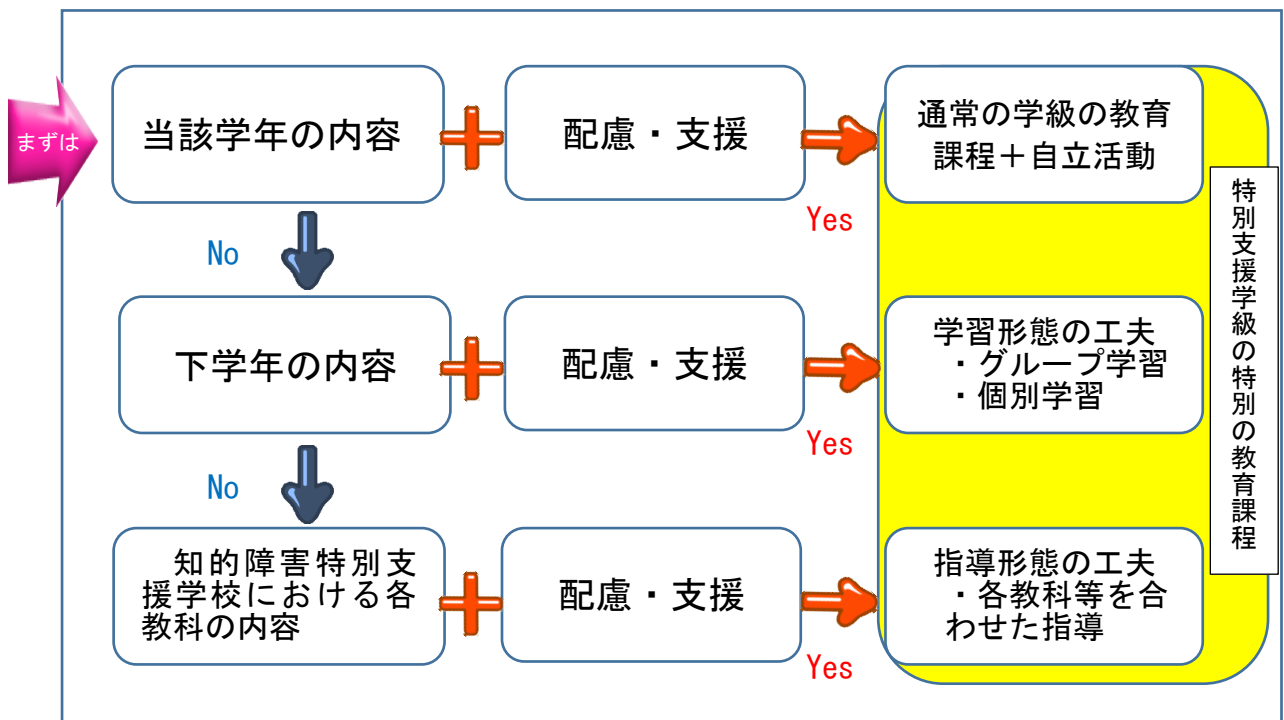
どのような手続きで「特別の教育課程」を編成すればいいのですか？

子どもの実態と照らし合わせ、特別支援学級で実施可能な配慮や支援によって、当該学年の内容で学習可能かどうかを検討します。自立活動の指導内容についても検討します。

当該学年の内容で学習が難しい場合は、各教科の内容を下学年に替える、あるいは、知的障がい特別支援学校における各教科の内容に替えるなどを検討します。

※「管理職と担任のための特別支援学級ガイドブック」 P4～6 参照

下の表で一人一人の子どもの実態と照らし合わせて検討しましょう。



※ 「小学校・中学校管理職のための特別支援学級の教育課程編成ガイドブックー試案ー」から
国立特別支援教育総合研究所

3つの事例について、左の表と子どもの実態を照らし合わせて特別の教育課程を編成してみました。

肢体不自由のあるAさんの場合

Aさんは、肢体不自由のある中学校1年生です。一人で移動をしたり、ゆっくりではありますが文字を書いたりできます。

知的障がいはないので、当該学年の内容を十分理解できます。

左の表に照らし合わせると、ほとんどの教科が下のよう計画できます。

当該学年の内容



配慮・支援



ただし、技能教科については、ダイナミックな動きや細かい動きの困難さから技能習得が難しく、単元に応じて下学年の内容に変更することとしました。

知的障がいのあるBさんの場合

Bさんは、知的障がいのある小学校3年生です。話す活動は得意ですが、書く活動になると不器用なこともあり、消極的になりがちです。当該学年の学習内容の理解はやや難しいのですが、Bさんのペースに合わせれば言葉や計算方法を理解することができます。左の表に照らし合わせると、下のよう計画できます。

下学年の内容



配慮・支援



1年生からの学習状況を確認し、国語は1年生、算数は2年生の内容で実施することとしました。

知的障がいのあるCさんの場合

Cさんは、知的障がいのある小学校5年生です。平仮名を読んだり書いたりすることや1桁の四則計算はできますが、抽象的な内容の理解は難しい状況です。生活に結び付いた具体的な学習内容であれば、社会生活に必要な知識や技能が身に付きます。

左の表に照らし合わせると、下のようになります。

知的障害特別支援学校
における各教科の内容



配慮・支援



国語、算数等の教科学習や生活単元学習等の教科領域を合わせた指導の形態も取り入れることとしました。

一人一人の実態に応じた教育課程を編成できるよう保護者との話し合いを行い、合意形成を図りましょう。

Q4 時間割は、どうやって決めるの？



美子先生。「時間割」はどうやって作成していますか？
学年がばらばらで6人，交流の時間もあるでしょう……。

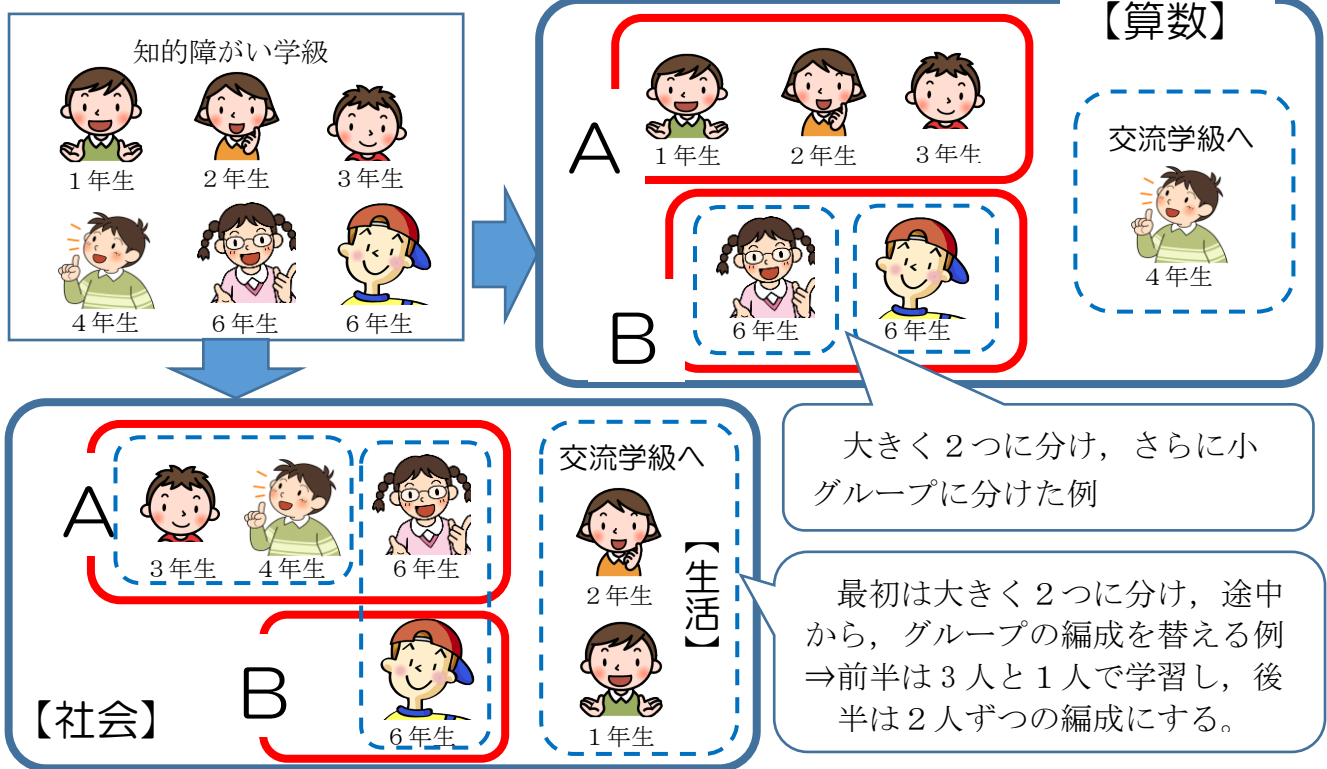
まずは特別支援学級の中で時間割を合わせる教科の時間を決めます。

特別支援学級の中で時間割の教科を合わせるのは、なぜですか？



基本は特別支援学級で授業を計画します。学習は個別の指導計画に基づいて行いますが，グループ学習を適時取り入れています。グループ学習は，課題意識を継続したり意欲を高めたりすることに効果的です。一人一人の実態により，教科あるいは学習活動に合わせたグループを編成します。できるだけ同じ教科で時間割を組むために，教務主任の先生や交流学級の先生方に協力していただいています。

【グループ編成例】



新学習指導要領解説総則編では「全ての教師が障害に関する知識や配慮等についての正しい理解と認識を深め，障害のある児童生徒などに対する組織的な対応ができるようにしていくことが重要である。」と述べられています。一人一人の学びを保障するための時間割を作成するには，特別支援学級での個別の学習やグループ学習の編成，「交流及び共同学習」の時間の確保等の検討が必要であるため，特別支援学級担任だけでは決められません。

全ての教師の理解と協力が必要であり，教務主任によるコーディネートが不可欠です。

なるほど。複式学級の様ですね。ところで各教科の時数は？



総時数は当該学年と同じです。でも、特別の教育課程でするので各教科・領域の授業時数は弾力的に取り扱えます。私は、国語の1時間を自立活動の指導に替えています。



3年生の時間割を作ってみました。去年は、音楽と体育を交流していた子どもですが、交流する教科は今年も同じですか？

どの子どもも同じ教科で交流しているのですか？それは、だれが決めるのですか？

交流及び共同学習には、

「相互のふれ合いを通じて豊かな人間性をはぐくむこと」を目的とする交流の側面と**「教科等のねらいの達成」**を目的とする共同学習の側面があります。

(文部科学省：交流及び共同学習ガイドより)

交流及び共同学習を進めるには、上の目的が十分達成できるのかを交流学級の担任と私たちが十分検討する必要があります。その上で、進級する時に保護者に説明し、ご理解いただきながら決めています。



☆時☆間☆わ☆り☆
3年〇組

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導	音楽	体育 3の〇	日常生活の指導	国語
2	国語	国語	理科	国語	理科 〇〇先生
3	書写 教頭先生	図工	生活単元学習	学活	音楽 3の〇
4	生活単元学習	社会	図工	生活単元学習	体育 3の〇
5	算数	体育 3の〇	算数	算数	総合
6		算数 〇〇先生		社会	

宿題はおわりましたか？
わずれ物のないようにしましょう。



◆上の時間割の見方

- ①交流及び共同学習⇒3の〇
- ②出張授業⇒〇〇先生



交流学級に行く時には、支援員さんが付き添わなくてはならないのですか？

自学級で学習する子どももいるので、個別の学習をする時間にできるといいのですが…。

交流及び共同学習は、支援員が付き添うことが前提ではありません。

支援員が付き添わなくても交流学級の友達と力を合わせながら交流及び共同学習に取り組めるように、交流学級の担任が行う支援を特別支援学級の担任と十分検討することが大切です。

ある学校では、校長先生から「交流学級では、特別支援学級の子どもに学級担任の支援が届きやすいように座席を前にしましょう。」という働き掛けにより、全ての学級で座席を前にし、交流学級の担任が支援をしています。交流及び共同学習でのそれぞれの担任の役割を職員全体で確認することは、組織的な取組につながります。

新学習指導要領第3章第5節で交流及び共同学習は、「双方の児童（生徒）の教育的ニーズを十分把握し、校内の協力体制を構築し、効果的な活動を設定することなどが大切である」と述べられています。全職員で共通理解を図りましょう。



Q5 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」「通知票」の違いは？



太郎先生。「個別の指導計画」を見ていただけましたか？
1年生は、「個別の教育支援計画」も新たに作らないとね。
書き方で分からないところは、ありませんか？

実は・・・書き方が分からないところがたくさんあって・・・悩んで
いました。ところで、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計
画」、それと「通知票」はどう違うのですか？



「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」「通知票」の目的と役割は下
の通りです。内容は類似していますが、目的が違いますね。私たちの学校
では、個別の指導計画の評価を通知票に転用できるように特別支援学級の
通知票の形式を改善しています。

「個別の指導計画」とは、「一人一人の教
育的ニーズに対応して指導目標や指導内容・
方法を盛り込んだ指導計画」のことで、単
元や学期、学年ごとに作成し、それに基づい
て指導をしていきます。

※「個別の教育支援計画」様式記載例（中学校）

個別の教育支援計画		学年	学期	学期
氏名	滝川 花子	男/女	小柄/標準/大柄	
学籍番号		住所	中央区〇〇町〇〇 〇丁目〇	
学校名	〇〇〇 中学校	転入		
学年・組（組立）	1年 〇組	学年（前）	2年 〇組	
転入理由	〇〇〇〇	〇〇〇〇		
入学前や 転入中の様子	〇入学前：〇〇小学校作成「個別の教育支援計画」参照			
将来の生活 環境の生活に ついての 希望・願い	【本人】 友達と一緒に勉強したり、部活をしたりしたい。 高校に入って〇〇をしたい。 【保護者】 希望の学校の中で友達とかわりながら学校生活を送ってほしい。 将来は、自分のできる生活できるようになってほしい。			
支援機関等 （家庭・地域・ 学校・関係 機関） の名称	【家庭】 ・食事の残片付けなど隔日毎に仕事別で分担して取り除けている（母） ・週2回、通に通る。（送の迎えを母） 【支援】 ・主治医 〇〇病院〇〇先生 ・通学バス			
学校生活で 提供する 合理的配慮	① 周りからの刺激が多いと集中しにくいので、授業は静かな声で指示を出して くれるかの確認を行う。（担任） ② 授業開始の通知音響を聞こえにくい目覚まし器で目覚まし音の代わりに 交換を行う。（担任・特別支援教育コーディネーター） ③ 授業のコントロールが難しい時は、別室で過ごす。（級別）			

「個別の教育支援計画」
とは、他機関との連携を図
るための長期的視点に立っ
た計画です。

個別の指導計画

学年	年度	指導計画（〇〇期）	新潟県立〇〇小学校・中学校
1年	1	1	1
1年	2	2	2
1年	3	3	3
1年	4	4	4
1年	5	5	5
1年	6	6	6
1年	7	7	7
1年	8	8	8
1年	9	9	9
1年	10	10	10
1年	11	11	11
1年	12	12	12

学年		児童生徒名	
各教科の学習の記録（前記）			
目	場	学習の様子・評価	
国語			
算数			
英語			
社会			
理科			
音楽			
美術			
体育			
保健			
総合			
特別活動			
その他			

「通知票」は、「保護
者に対して子どもの学習
指導の状況を連絡し、家
庭の理解や協力を求める
もの」です。

※ 「個別の指導計画」の様式例と記載ポイントについては、当ガイドブック P26 参照。
※ 「個別の教育支援計画」の活用については、「平成 28 年度版授業づくりガイドブック」
P42, 43 参照。様式例については「個別の教育支援計画作成と活用のための Q & A」参照。

Q6 教科書はどのように使っているの？

通常の学級の子どもと同じ教科書で学習しているのですが、子どもの実態に合わない場合、どうしていますか？



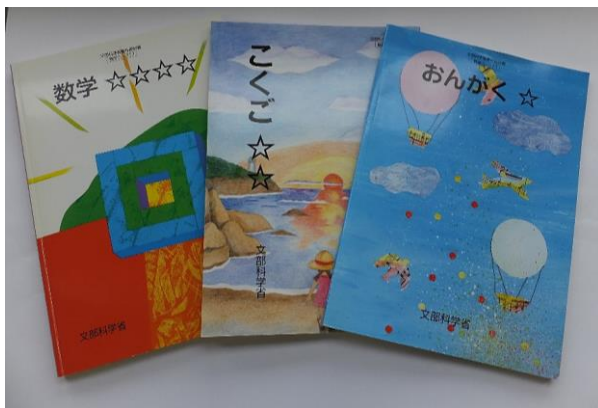
私は、一人一人の子どもに合わせて教科書を使っています。
例えば、「準ずる教育」の場合は、当該学年の指導内容となりますので、教科書の指導内容を確認しながら指導します。

「下学年対応」の場合は、下学年の指導内容を確認しながら学習を進めています。「知的障害特別支援学校における各教科の内容」の場合には、「☆本」を参考にします。「☆本」はご存じですか？



「☆本」とは、文部科学省著作教科書のことです。

国語、算数・数学、音楽の教科書が発行されています。これらの教科書解説書も発行されています。



教科書解説



国語、算数・数学、
音楽があります。

※「☆本」の教科書を参考にした算数と国語の活動例を当ガイドブック P13, 24, 25 に掲載しました。

※教科書の採択の詳細については、「管理職と担任のための特別支援学級ガイドブック」P7で確認してください。

ぜひ、使ってみたいです。

ところで、「準ずる教育」として教育課程を編成している子どもの学習ですが、その子どもの実態に合わせると教科書の内容を全部行うことができそうもありません。どうしたらいいですか？



そのような実態であれば「準ずる教育」とは言えません。私は「下学年対応」あるいは「知的障害特別支援学校における各教科の内容」で教育課程を見直します。保護者に子どもの実態をお伝えし、理解していただく働き掛けも必要です。教科書を選択する前に、保護者と個別の指導計画を基に次年度の学習や使用する教科書の確認をしています。



Q7 子ども一人一人の困り感にどのように対応したらいいの？

新学習指導要領では、「障がいのある児童生徒などの『困難さ』に対する『指導上の工夫の意図』を理解し、個に応じた様々な『手立て』を検討し、指導に当たっていく必要がある」とし、組織的な対応の重要性を述べています。担任を含む全ての教師間において、個々の児童生徒に対する配慮等の必要性を共通理解することが大切です。



あの…困り感のある子どもへの支援のことで悩んでいるのですが…。

では、一緒に考えてみましょう。いろいろな支援方法があるので、その子どもに合った方法を試しながら見付けていきましょう。



集中することが苦手なDさん

- ① 集中できる時間は、どのくらいの時間か確かめてみましょう。
集中できる時間を基に授業内容を組み立てます。
例えば、「集中できる時間5分程度」の子どもの場合
 - ・5分ごとに活動を切り替える。
音読 ⇒ 隣の友達と交代読み ⇒ 板書を写す
 - ・5分ごとに「座っているね」の称賛（スタンプ）
- ② 集中しやすい活動を通して称賛の機会を増やしましょう。
例えば、「計算練習では10分座ることができる」⇒ 称賛
- ③ 集中しにくい刺激を減らしましょう ⇒ 環境調整
例えば、音に反応しやすい ⇒ イヤーマフの活用
周りがある物が気になる ⇒ 衝立の活用



文字を書いたり、絵を描いたりすることが苦手なEさん

- ① 学習の習得状況を再確認しましょう。
 - ・平仮名から調べましょう。拗音は？ 促音は？ 長音は？
 - ・次に、片仮名、漢字と調べます。中には、片仮名は苦手だけれど漢字は得意という場合もあります。
 - ・読むことと書くことは分けて確認しましょう。読めるけれど書くことは苦手という場合もあります。
- ② 今、できているところが出発点です。まずは、できそうなところを確実にしていきましょう。ただし、何十回も繰り返す練習は、苦手な子どもには効果がない上に、学習意欲の低下につながります。苦手な要因を探りながら、学習方法を工夫していきましょう。
例えば、カルタの活用 ⇒ 絵を手掛かりに文字を覚える
オノマトペの活用 ⇒ 擬音語を使って動きをイメージする
タブレットの活用 ⇒ 平仮名を練習するアプリ等



勝ち負けに敏感で、予定変更や周りの変化が苦手なFさん

- ① 敏感になる行動に周りが冷静に対応しましょう。
 - ・勝ち負けにこだわり、負けると泣いたり、いらいらしたりする。
⇒ 「ゲームって、勝ったり負けたりするものだよ」と冷静に対応する。
 - ⇒ 泣きそうになったけれどがまんしている姿は、見逃さずに称賛する。
 - ・予定が急に変わっていらいらする。
⇒ 全体に伝える前に「実はね。…」とこっそり伝えておく。
 - ⇒ 予定が変わることがあることを日常的に伝える。
- ② 不安な気持ちが安定するように、不快な思いは受け止めましょう。
 - ⇒ 「…がしたかったんだね。できなくて悔しかったね」と言語化する。
 - ⇒ 言葉で表現した場合は、「…と思ったんだね」と受け止める。



自分の思いを言葉で伝えることが苦手なため不適切な行動で表現するGさん

思いを伝えるスキルアップの支援も必要ですが、まずは不適切な行動を改善していきます。

- ① 不適切な行動の状況（場面や頻度等）を確認しましょう。
 - ・どんな時に不適切な行動が見られるのか。
 - ・どのくらいの時間続くのか。
 - ・不適切な行動に対して、周りはどのように対応しているか。
 - ・家庭では、不適切な行動にどのように対応しているか。
- ② 不適切な行動への対応のポイントを確認しましょう。



下のように不適切な行動に対しての周りの対応が本人にとって利益があると、不適切な行動が強化されていきます。



勉強が難しくて
やりたくない



いらいらする



A：校長室で好きな
遊びをして落ち着く



Aの対応はクールダウンではありません。この対応が続くと、不適切な行動の回数が増えたり、強さが増したりします。



勉強が難しくて
やりたくない



いらいらする



B：何も無い部屋
でクールダウン



C：クールダウン
したことを称賛



D：学習の場に戻っ
たことを称賛



B⇒C⇒Dの対応をすると適切な行動が定着します。クールダウンできたことや適切な行動に取り組んだことを称賛することが大切です。ただし、愛着に課題のある子どもの場合は、このような対応をしても、「試し行動」（自分をどこまで受け入れてくれるかを探る行動）により一次的に不適切な行動が強くなる場合があります。担任一人での対応でなく、専門家の意見も聞きながらチームで対応しましょう。

Q8 連絡帳はどうしている？



美子先生。「宿題」はどんな内容を出していますか？
「連絡帳」をどう活用していますか？

「宿題」は、家で一人でもできる内容にしています。例えば、今日取り組んだ計算問題について復習するとかね。
宿題や明日の予定を「連絡帳」に書くように言っています。
保護者と私のやり取りは別なノートを準備しています。



連絡帳の例

中学校では下のよう
に、ファイルに綴らせる方法と生活ノートを活用させる方法があります。交流学級を利用する状況に合わせて配慮しましょう。

子どもの実態や学習の状況に応じて連絡帳の形式を変えています。

保護者との連絡用の形式です。「学校より家庭へ」の欄は、教師が記載します。大切なことは個別に赤で付け足しています。

家庭学習には、学校での学びを家庭と共有するという目的があります。連絡帳等を利用し、家庭学習（宿題）の内容を共有したり、その方法を確認したりしながら準備しましょう。

Ⅱ 授業のフレームワーク

「学習課題」「まとめ」「振り返り」のある授業は、「何を学んでいるのかが分かる」「どのように学ぶのかの見通しがもてる」ことから、特別支援学級の子どもたちにとっても安心して取り組める授業です。このような学びの積み重ねにより主体的な学習態度が身に付きます。これは、通常の学級でも特別支援学級でも同じです。

「授業のフレームワーク」の事例の見方

授業のフレームワークをどのように適用するか
 ○ 教科、教科・領域を合わせた指導の特質や本時のねらいに合わせ、適切なフレームワークを弾力性に適用し、活用しよう。
 【技能習得型のフレームワークの適用】（「～ができる」をねらいとする場合）

技能習得型	
問題提示	問題提示・教材提示・発問等の働き掛けにより、子どもに「問い」をもたせる。
学習課題	子どものもったずれを生かし、内容性・情意性・集団性の高い課題を「問い」の形（疑問形）で設定する。
まとめ	疑問形の学習課題に正対した「答え」を子どもとともに教師がまとめる。
振り返り	「まとめ」を活用した学習活動を充実させる。 「まとめ」を活用した結果、どうだったのかを振り返る。（「まとめ」に実感は伴う） 自分の考えを表現したり、友達と考えを結び付けたりする。この学習活動は、授業づくりの重要なポイントです。

「授業づくりガイドブック 28年度版」のフレームワークの説明を掲載しました。

問題提示	「～ができます」をねらいとする場合、子どもに「問い」をもたせる。
学習課題	子どものもったずれを生かし、内容性・情意性・集団性の高い課題を「問い」の形（疑問形）で設定する。
まとめ	疑問形の学習課題に正対した「答え」を子どもとともに教師がまとめる。
振り返り	「まとめ」を活用した学習活動を充実させる。 「まとめ」を活用した結果、どうだったのかを振り返る。（「まとめ」に実感は伴う） 自分の考えを表現したり、友達と考えを結び付けたりする。この学習活動は、授業づくりの重要なポイントです。

○ どの子どもも参加しやすい「体験」から課題意識を育みましょう。
 ○ 「見通し」をもたせるための「教材」は、情報過多でなくシンプルにしましょう。
 ○ 1枚のワークシートを幅広くアレンジし、個別対応しましょう。

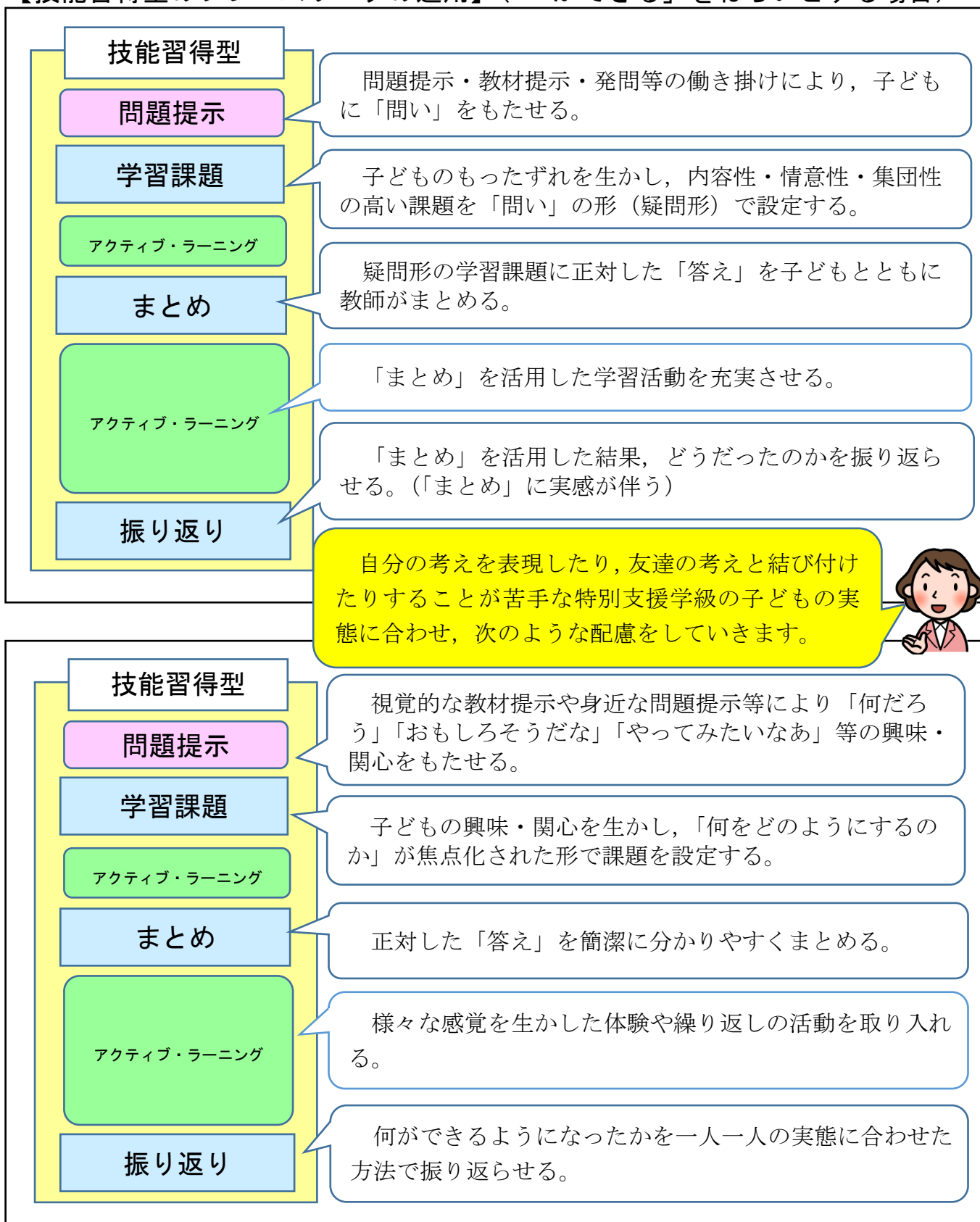
学習の流れに沿って、特別支援学級で配慮するポイントを示しました。

各フレームワークについて1時間の活動例を掲載しました。

授業のフレームワークをどのように適用するか

- 教科，領域・教科を合わせた指導の特質や本時のねらいに合わせ，適切なフレームワークを弾力的に適用します。

【技能習得型のフレームワークの適用】（「～ができる」をねらいとする場合）



【算数】「表やグラフを使ってみよう！作ってみよう！」

小学校特別支援学級 本時4／8時間

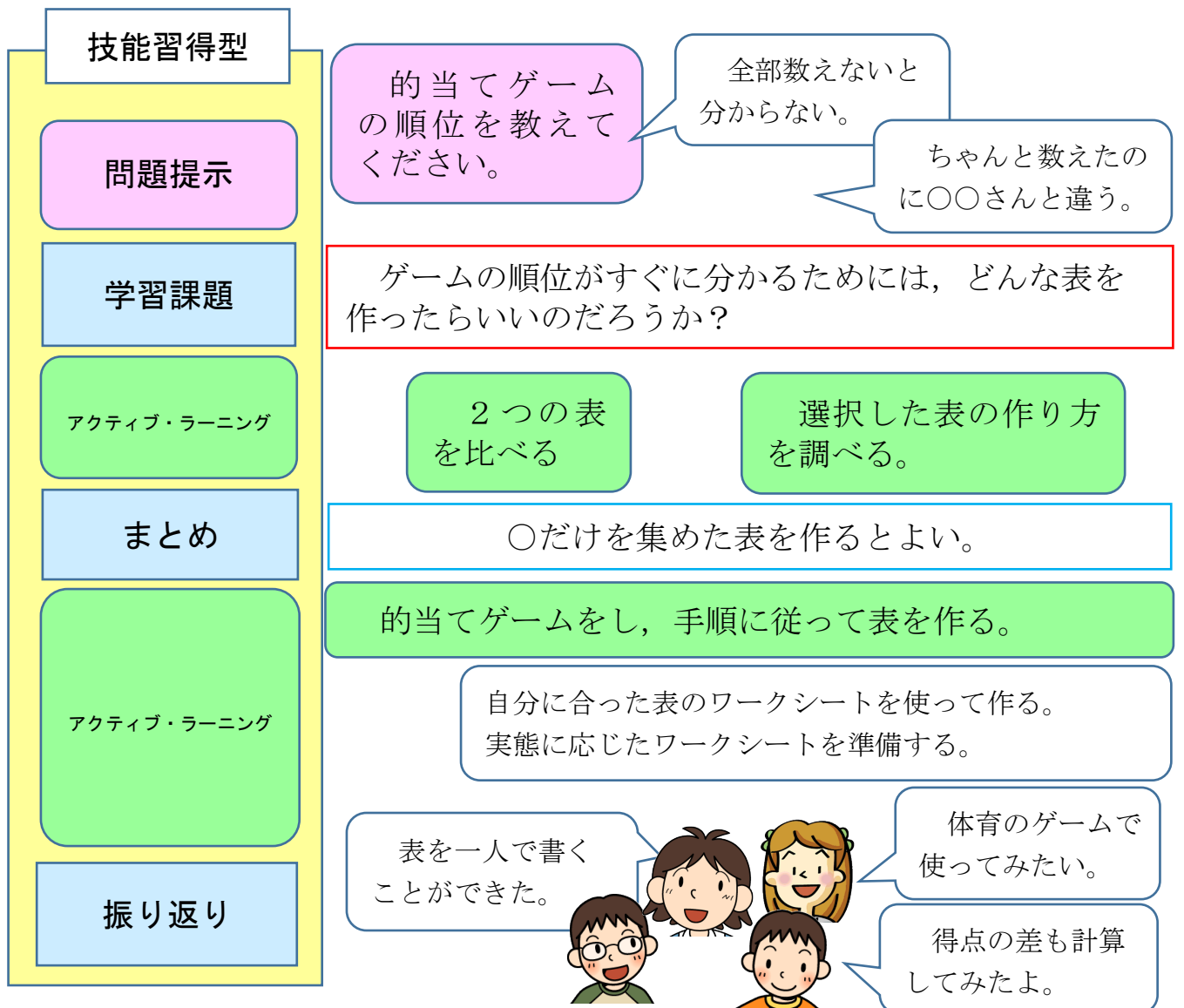
(さんすう☆☆☆「ひょうをつくりましょう」「グラフをつくりましょう」より)

〈単元の構成〉 1次：4時間（表を作ってみよう）

2次：4時間（グラフを作ってみよう）

〈本時のねらい〉

的当てゲームを行い、結果を記録することを通して、表を使う便利さを知り、順位がすぐに分かる簡単な記号を使った表を作ることができる。



- どの子どもも参加しやすい「体験」から課題意識を育みましょう。
- 「見通し」をもたせるための「教材」は、情報過多でなくシンプルにしましょう。
- 1枚のワークシートを幅広くアレンジし、個別に対応しましょう。

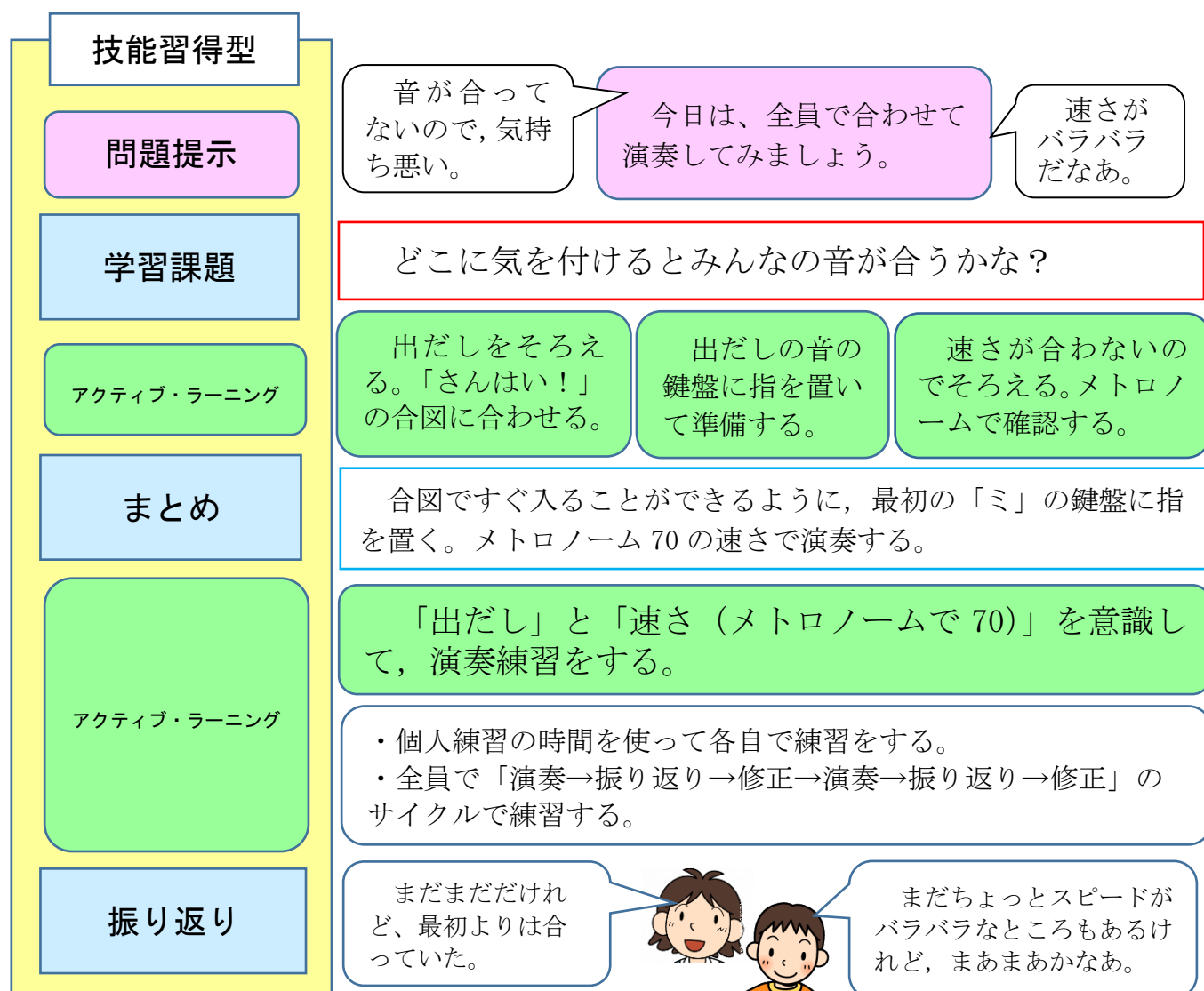
【音楽】「クリスマス会に向けて、冬の音楽を奏でよう」

中学校特別支援学級 本時5 / 8時間

- 〈単元の構成〉 1次：1時間（クリスマス会について知る）
2次：6時間（演奏の練習をする）
3次：1時間（発表会）

〈本時のねらい〉

クリスマスソングの練習活動を通して、「出だし」や「速さ」をそろえることを意識して演奏することができる。



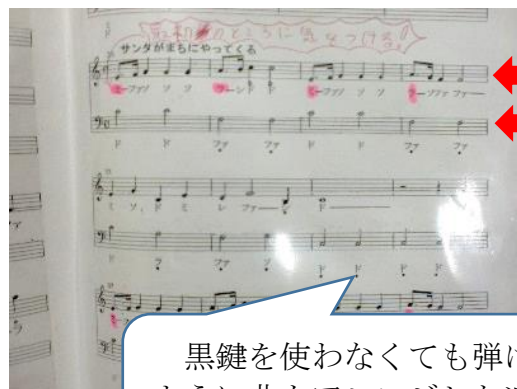
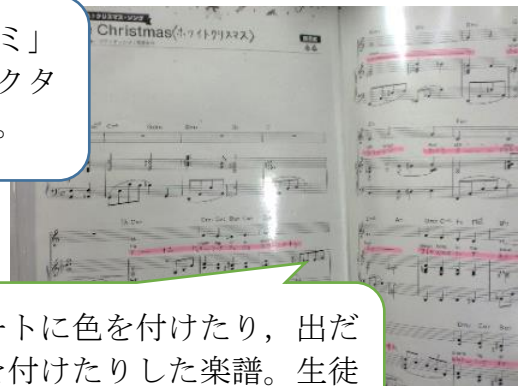
- 生徒の興味・関心を基に、実態に合わせて教材を工夫しましょう。
(例：中学生らしい曲を選ぶ、原曲を弾きやすいようにアレンジする、片手で演奏できる、楽譜にドレミをつける、キーボードにドレミを表示する等)
- 生徒の意欲が持続しやすいように、活動構成を工夫しましょう。
(例：歌詞で歌う→ドレミで歌う→演奏する、個人→全員→個人→全員で演奏等)

〈生徒の興味・関心を基に実態に合わせた教材の工夫〉

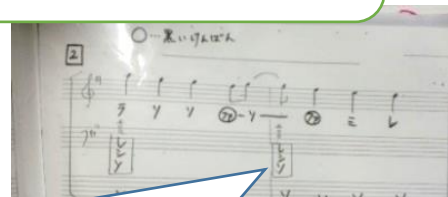
低い「ドレミ」の鍵盤には下に○，高い「ドレミ」の鍵盤には上に○を付けます。このように，3オクターブ分を書き分けます。楽譜ともリンクさせます。



自分のパートに色を付けたり，出だしの音に印を付けたりした楽譜。生徒自身がオリジナルの楽譜にしていく。



メロディ
ベース

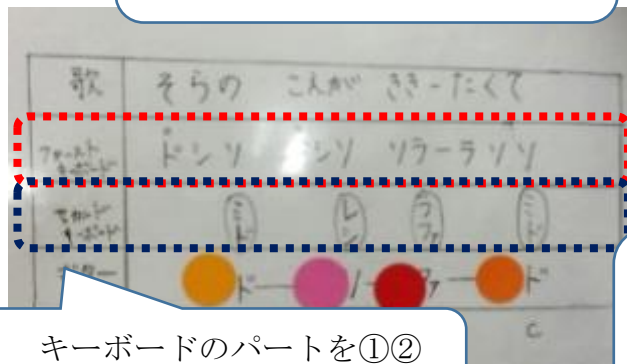


黒鍵を使用する箇所の「ドレミ」を○で囲んだ楽譜

黒鍵を使わなくても弾けるように曲をアレンジした楽譜（両手で演奏する生徒用）



押さえる指の位置をシールで示したギター



キーボードのパートを①②の二つに分けた楽譜

ギターのパートごとに，シールで押さえるところを色分けした楽譜

〈学習環境の工夫〉

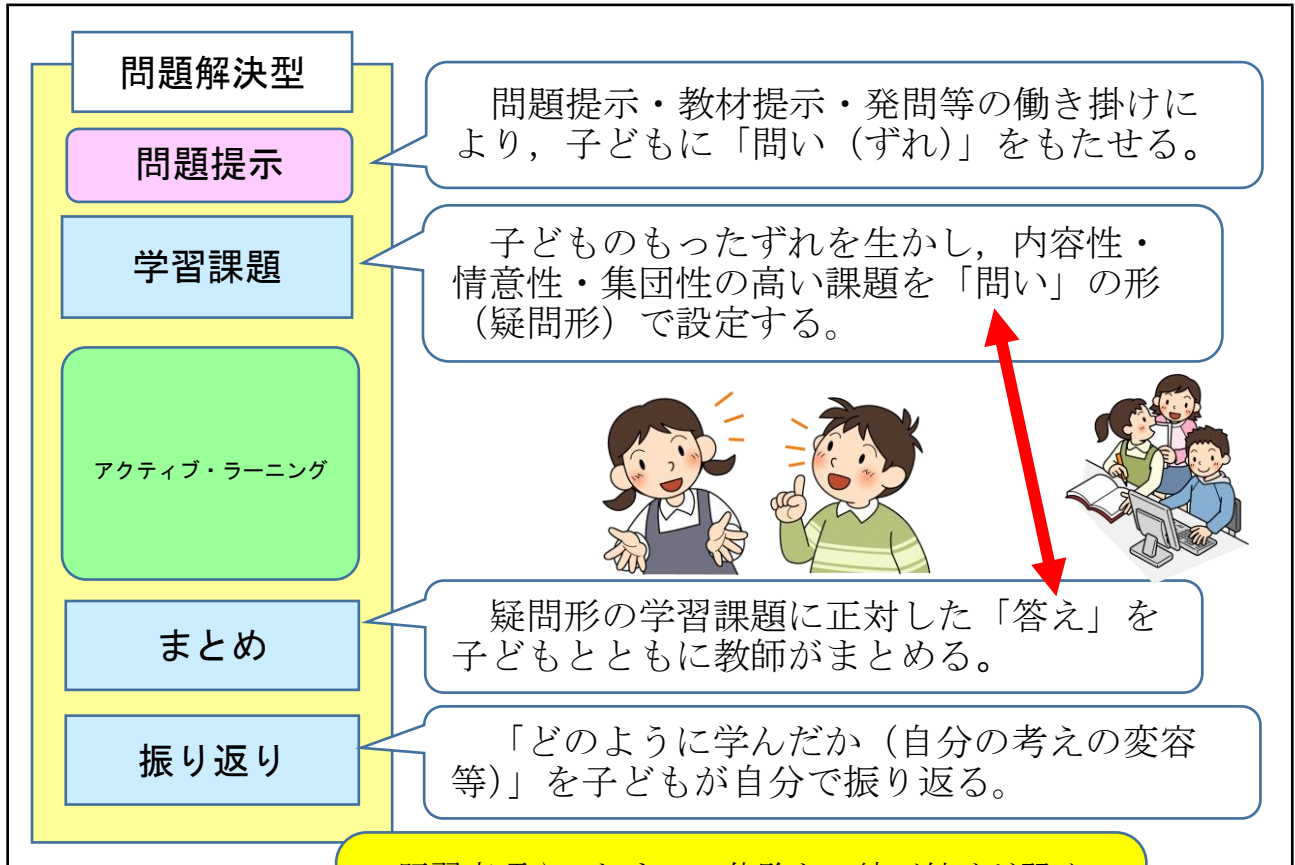


全体練習は互いの演奏を意識しながら弾けるように内側を向く。

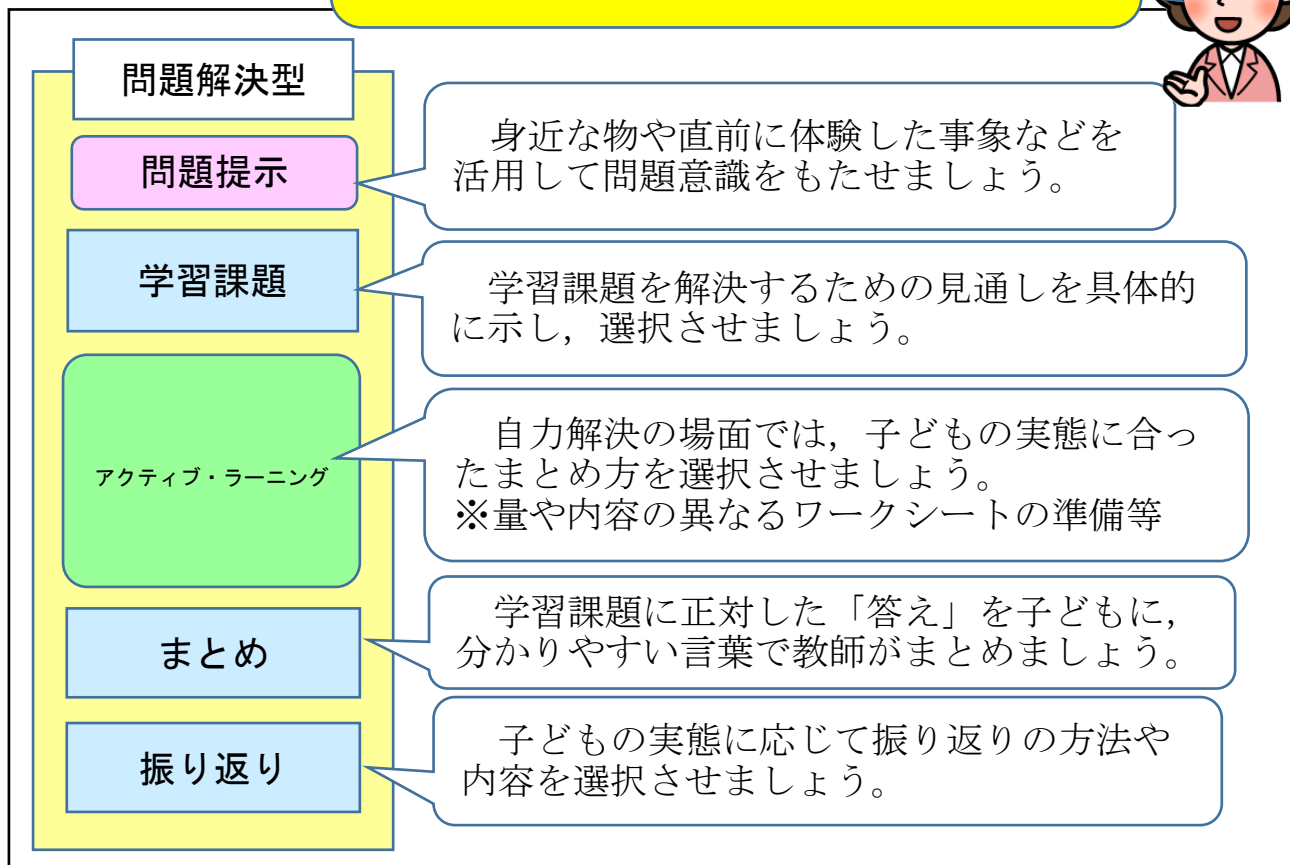


個人練習は自分の練習に集中しやすいように壁側を向く。

【問題解決型のフレームワークの適用】



既習事項やこれまでの体験との結び付けが弱く、一人で見通しをもつ力が弱い特別支援学級の子どもの実態に合わせ、次のような配慮をしていきます。







【家庭】「洗濯名人になろう！」中学校特別支援学級 本時（1／7時間）

- 〈単元の構成〉 1次：2時間（洗濯のしかたを調べよう）
2次：5時間（洗濯機を使ってみよう）

〈本時のねらい〉

洗濯の手順を調べる活動を通して、洗濯の道具や洗剤の使い方が分かり、手順表に書き表すことができる。

問題解決型	洗濯機に入れるといいよ。 洗剤も入れるよ。 洗剤はどのくらい入れるのかな？	
問題提示	この体操着を洗濯したいのだけれど…。	
学習課題	この体操着をきれいに洗濯するためにはどんな手順がよいか。	
アクティブ・ラーニング	資料（プリント・画像等）から手順を見付け、ワークシートにまとめる。	
	保健室の先生にインタビューする。 〇〇先生にインタビューする。	
まとめ	洗濯の手順は、 ①・・・・・・・・ ②・・・・・・・・ ③・・・・・・・・	
振り返り	これからは、洗濯機に入れる前にポケットの中を見るようにしたい。 この順序で家でも洗濯してみたい。	



- 具体物を示し、子どもが課題意識を共有できるようにしましょう。
- 問題解決の方法を示し、解決までの見通しをもたせましょう。
資料は子どもの能力差に応じて、拡大する、ルビをふる、単純な図を入れる等の配慮をしましょう。また、文字が苦手な子どもが活用できるように映像の資料等も提示しましょう。
- ワークシートは能力差に応じてアレンジできるものにしましょう。

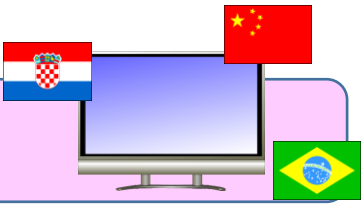



【総合的な学習の時間】「外国の文化を知ろう！」

中学校特別支援学級 本時 1 / 10 時間

- 〈単元の構成〉
- 1次：1時間（世界にはどんな国があるのかな）
 - 2次：8時間（外国の自然や言葉，慣習を調べよう）
 - 3次：1時間（調べたことを友達に伝えよう）

〈本時のねらい〉

オリンピックの開会式のビデオを見ることを通して，世界にはたくさんの国があることを知り，言葉や慣習等について調べたい国を選ぶことができる。

問題解決型	 <p>オリンピックの開会式を見たことがありますか。</p>
問題提示	<p>知らない国がたくさんあるね。</p> <p>サッカーの強い〇〇はどこにあるのかな。</p> 
学習課題	<p>世界には国がいくつあるのかな。〇〇について紹介します。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>その料理食べたことがあるよ。</p>  <p>とても寒そうだね。</p>
まとめ	<p>それぞれの国にはどんな違いがあるのだろう。</p>
振り返り	<p>日本との違いを調べるには，それぞれの国の何をどうやって調べるといいのかな。</p>
	<p>①調べる項目をみんなで話し合っ決めて。 ②調べたい国をグループで話し合っ決めて。 ③調べる方法をグループで話し合う。 インターネット，図書室にある本社会の資料集，</p>
	<p>（グループごとに）調べる国は〇〇国，〇〇国調べることは〇〇と〇〇と〇〇。〇〇〇〇を使って調べる。</p>
	<p>〇〇を調べることが楽しみです。</p>  <p>友達と話し合っ決めてすることができた。</p>

総合的な学習の時間～題材と学習活動例

「卒業後の進路を考えよう」

- ▷ 卒業した先輩から高校生活あるいは高等部での生活について聞き、卒業後の生活に関心をもつ。
- ▷ 中学校生活と高等学校（あるいは高等部）生活の違い等を分担して調べる。
- ▷ 高等部の学校見学をし、高等部の生活を具体的に知る。
- ▷ 高校生活に向けて準備すべきことをまとめる。
- ▷ 高等学校（あるいは高等部）を卒業した先輩の進路の話聞き、将来の仕事への関心をもつ。



「私たちの住んでいる地域を知ろう」

- ▷ 地域にある公共施設や商店街などのビデオや人気商品などを見て、地域への関心をもつ。
- ▷ 公共施設（図書館、公民館等）の利用方法を調べ、実際に利用したり、施設の方にどんな利用があるのか聞いたりする。
- ▷ 商店街で買い物をしたり、人気商品を味わったりする。
- ▷ 地域について調べたことや体験して学んだことをまとめたり発表したりする。



「中学校区の特別支援学級の交流会をしよう」

- ▷ 中学校区の特別支援学級交流会の昨年度のビデオを見て、今年の活動への興味・関心をもつ。みんなでやって楽しかった活動を思い出したり発表したりする。
- ▷ みんなが楽しい交流会にするためには、どんな活動や準備をしたらいいかを話し合う。
- ▷ 小学校にアンケートを取り、情報を集める。
- ▷ 交流活動の準備をする。
- ▷ 当日の運営について役割分担を話し合う。
- ▷ アンケートをとったり、新聞を発行したりするなどの活動により振り返りをする。



【自立活動】「仲間をつくろう！」小学校特別支援学級（本時 6/10 時間）

〈単元の構成〉

1次：4時間（なんて言えばいいのかな：よりよい話し掛け方）

2次：6時間（仲間に入りたい時、誘う時：ロールプレイで学ぼう）

〈本時のねらい〉

友達を誘う場面のロールプレイ活動を通して、自分の気持ちを穏やかに相手に伝えたり、小集団の活動に意欲的に参加したりすることができる。

問題解決型	<p>休み時間のマラソン練習、友達と走りたいけど…。</p> <p>友達を誘うといいよ。</p> <p>なんて言えばいいかな…。</p>
問題提示	
学習課題	<p>友達と一緒にマラソン練習をするためには、どのように誘ったらいいだろうか。</p>
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・資料（プリント・画像等）から、言い方や反応を疑似体験し、気持ちを考える。 ・上手に誘うには、○○○や○○○や○○○についてどのように気を付けるかを考える。 ・ロールプレイを繰り返し、誘い方を工夫する。
まとめ	<p>上手に誘うコツは、</p> <p>①…………… ②…………… ③……………</p>
振り返り	<p>「一緒に走りたい。」ってお願いできるぞ。</p> <p>今度、音楽の時間にも使ってみたいな。</p>



- 自立活動は、授業時間を設定する場合と教育活動全体を通じて指導する場合があります。具体的な指導内容をどの場面どのように指導するのかを指導者全員で共有化しましょう。
- 子どもが表現の工夫をしやすいように、スライドや視覚的な資料を使って、気持ちや言葉を見える形で表しましょう。
- 表現の工夫など、子どもの能力や発達段階に応じて選択できるように複数のモデルを提示しましょう。
- 別な場面でも使えるように、「仲間をつくるコツカード」などを作成し、活用しましょう。

自立活動の「個別の指導計画」作成～実態把握から目的設定の手順～

①実態把握

- ・体を動かすことが好き。
- ・友達に話し掛けられると返事をするが、自分から話し掛けることは少ない。
- ・急な予定変更や周りの変化にとまどい、活動に参加するまでに時間を要する。
- ・不器用なところがある（はさみ、リコーダーなど）。

本人の得意なこと、苦手なことを両面から記入する。

②自立活動6区分26項目から指導が必要な項目を選定

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1)情緒の安定に関すること	(1)他者とのかかわりの基礎に関する事	(1)保有する感覚の活用に関する事	(1)姿勢と運動・動作	(1)コミュニケーション
(2)病気の状態の理解と生活管理に関する事	(2)状況の理解と変化への対応に関する事	(2)他者の意図や感情の理解に関する事	(2)感覚性への対応に関する事		
(3)身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(3)自己の理解と行動の調整に関する事	(3)感覚代行手段に関する事		
(4)健康状態の維持・改善に関する事		(4)集団への参加の基礎に関する事	(4)感覚活用した環境の把握に関する事		
			(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5)状況に応じたコミュニケーションに関する事



【具体的な指導内容例】

(※自立活動編から)

相手や状況に応じて、適切なコミュニケーション手段を選択して伝えたり、自分が受け止めた内容に誤りがないかどうか確かめたりすることなど、主体的にコミュニケーションの方法を工夫すること。

【具体的な指導内容例】(※自立活動編から)

日常的によく使われる友達同士の言い回しや分からないときの尋ね方などを、あらかじめ少人数の集団の中で学習しておくこと。

新学習指導要領では、自立活動の項目が26項目から27項目となります。

③長期目標（1年後の達成を想定）

友達に自分から関わりを求め、必要に応じて援助を求めたり気持ちを伝えたりできる。

④短期目標（長期目標に向かうもの）

ア 友達から声を掛けられたら返事をする。	イ 友達に自分から声を掛ける。	ウ 友達にお願いしたり、自分の気持ちや考えを話したりする。
----------------------	-----------------	-------------------------------

⑤本時の主な学習と配慮

- ・日常生活の場面から具体的なやり取りを取り上げて学習意欲を高める。
- ・友達に声を掛けるときの言葉、表情、タイミング等について実際の場面を設定し、練習する。
- ・チャートや選択カードなどを利用し、日常場面でもできるようにする。
- ・返事、誘う、お願いするなど、段階的に関わる練習をする。

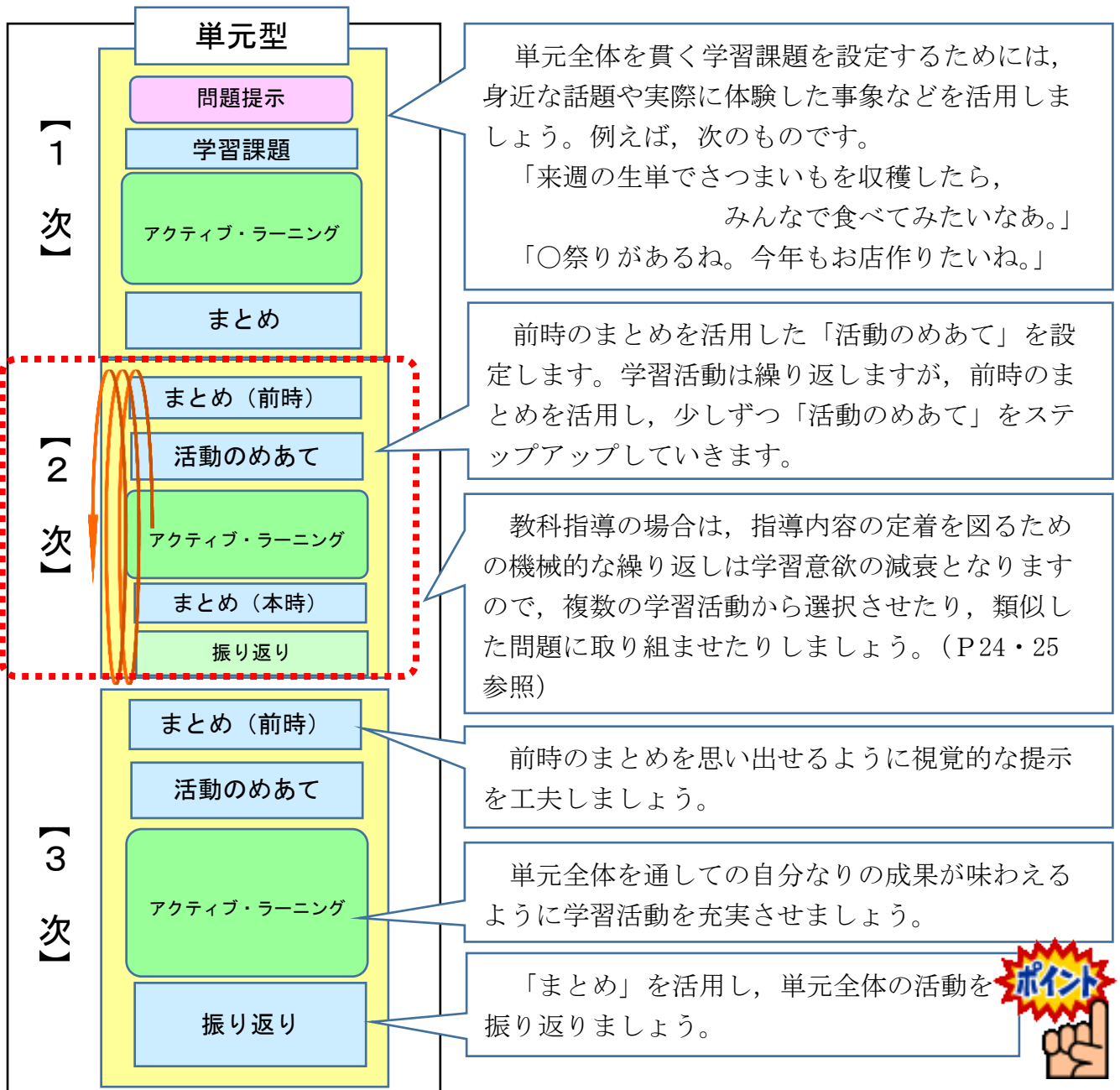


⑥本時の評価から次の学習内容の練り直し

【単元型のフレームワークの適用】

「学習課題」から「まとめ」「振り返り」までを複数時間で構成する場合

※詳しくは、授業づくりガイドブック平成28年度版「単元型フレームワーク」P20の説明をご覧ください。



知的障がいのある子どもが主体的に課題に取り組むためには、「見通しをもつ」「有用感や達成感をもつ」ことが大切とされています。学習活動を繰り返し、「見通しをもつ」「できることが少しずつ増えていく」と、自信や自己肯定感につながり、学習活動への期待や意欲が高まります。

「単元型のフレームワーク」のポイントで示したように、中心となる学習活動を繰り返し、日常生活で生きる知識や技能の定着、興味・関心の広がりを目指しましょう。



【生活単元学習】「ようこそ〇〇カフェへ！」

小学校特別支援学級 本時 18/20 時間

- 〈単元の構成〉
- 1次：8時間（お店作り）
 - 2次：10時間（カフェオープンに向けての練習）
 - 3次：2時間（カフェオープン）

〈本時のねらい〉

〇〇カフェの最後の練習に取り組むことを通して、友達と助け合ったり、教え合ったりしながら、自分の役割に意欲的に取り組むことができる。

【1次】	単元型	お世話になった先生方にお礼を伝えたい…。	<p>昨年はお店に招待したね。</p> <p>どんなお店がいいかな。</p>
	問題提示		
	学習課題	お客さんに喜んでもらえる〇〇カフェにするにはどんなお店にしたらいいかな。	
	アクティブ・ラーニング	<p>①近くのカフェを見学し取材する。</p> <p>②お店に必要な物を分担して作る。</p>	
	まとめ	おいしい飲み物があり，仕事をてきぱきとする店員さんがいるカフェにするとお客さんが喜ぶ。	
【2次】	まとめ		
	活動のめあて	(役割チームごと) 今日がんばることは，お客さんに…すること。…に気をつけます。	
	アクティブ・ラーニング	<p>①役割分担を決める。それぞれの仕事を練習する。</p> <p>②お客さんと店員と役割を交代して練習する。</p>	
	まとめ	(チームごと) 〇〇がうまくなるようになった。	
【3次】	振り返り	お客さんにもっとはっきりと話すようにしたい。	
	まとめ	(チームごと) お客さんに喜んでもらえるように…をがんばろう。	
	活動のめあて		
	アクティブ・ラーニング	<p>①役割分担を確認する。</p> <p>②お客さんへの対応を確認する。</p> <p>③自分の役割に最後まで取り組む。</p>	
	振り返り	<p>少し恥ずかしかったけれど，はっきりと話すように勇気をだしました。</p> <p>お客さんの注文を忘れないようにメモできました。</p>	

【国語】「友達に自己紹介をしよう」小学校特別支援学級 本時5／8時間
 (こくご☆☆☆「ぶんをかこう」, 小学1年「は, へ, を をつかってぶんをかこう」より)

〈単元の構成〉 1次：1時間,
 2次：6時間 (自己紹介カード作成)
 3次：1時間 (友達の自己紹介文のよいところ)

〈本時のねらい〉

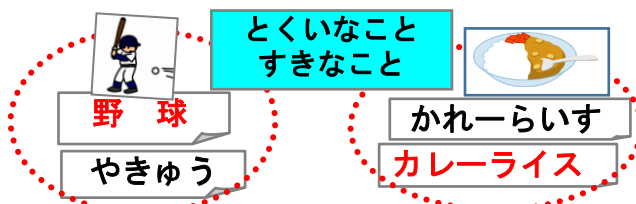
「は(が)」, 「を」の正しい文型で, つながりのある文を書くことができる。

【1次】	単元型	
	問題提示	上手に自己紹介したいなあ。
	学習課題	友達に, 自分のことを知ってもらうためには, どのようなことを伝えればよいでしょうか。
	アクティブ・ラーニング	① 自己紹介ができるまでの学習の見通しをもつ。 ② 短冊カードに好きなことや得意なことを書く。 ③ 「 <input type="text"/> は(が) <input type="text"/> 」, 「 <input type="text"/> を <input type="text"/> 」の文を考える。
	まとめ	相手に, 自分の好きなものや得意なことを伝えるとよい。
【2次】	まとめ	友達が分かりやすいカードにするには, 私は, どこに気を付けて書くとよいでしょうか。
	活動のめあて	
	アクティブ・ラーニング	①正しい文型で書く(主語と述語の組み合わせを理解し文章に表す) ②助詞を正しく使って書く。 ③文字の大きさに気を付けて書く。 ④片仮名を適切に使う。 ⑤漢字を調べて適切に使う。
	まとめ	○○に気を付けて書くとよい。 子どもの実態に合わせ, 学習活動が選択できるように複数準備する。 私は, ○○を漢字に直しました。
	振り返り	○○さんは片仮名を使っていたので, ぼくも今度使ってみたいです。 ○○さんは, 枠からはみ出さないように気を付けて書いていました。
【3次】	まとめ	友達は, どこに気を付けて自己紹介文を書いたのでしょうか。
	活動のめあて	
	アクティブ・ラーニング	①ワークショップ形式で友達の自己紹介文を聞いたり読んだりして, いいなあと思った言葉や文にシールを貼る。 ②シールを貼られたところを発表する。
	振り返り	○○さんは片仮名を使っていたので, ぼくも今度使ってみたいです。 ○○さんは, 枠からはみ出さないように気を付けて書いていました。

〈個別のねらいに応じた教材の工夫例〉

(1) 子どもが達成感を味わうための実態に合わせた教材活用例

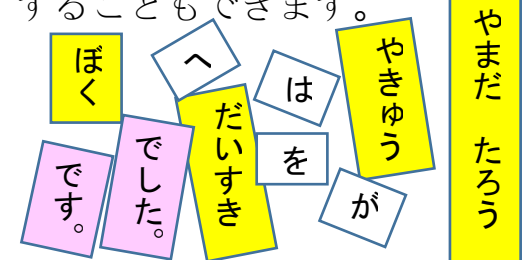
①言葉ヒントカード



自分が好きな物や得意なことを書く時の参考にします。想起しやすいように、文字カードや絵カードを準備します。実態に応じて、片仮名や漢字カードを提示します。

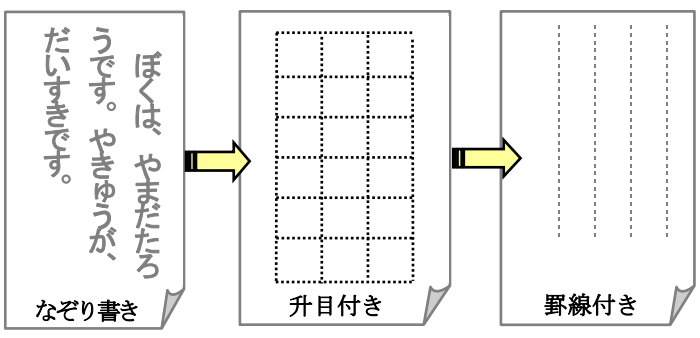
②単語と助詞のカード

下のようなカードの操作により、正しい文型や助詞を確認します。色別にし、区別しやすくすることもできます。




③ワークシート

実態に応じたワークシートの枠を準備します。
なぞり書きワークシートから取り組ませ、升目ワークシートに移行する等、細かいステップで指導することができます



④パソコンやタブレットの活用

文字を書くことに苦手意識がある場合には、パソコンやタブレットを活用する方法もあります。
デジタルカメラで伝えたい内容の画像を撮り挿絵とすることもできます。
内容を想起することへの支援にもなります。



(2) 「文を書く」ことに継続して取り組むための活動例

書くことへの抵抗感を低くすることが大切です。

上で示したものは教材例ですが、教師からのきめ細かな「称賛」も効果的な支援です。
友達に伝える活動を通して「認めてもらえる経験」を増やすことも意欲を高めることにつながります。



わたしは、たなか花子です。ホットケーキが、だいすきです。

ほめほめコメントは具体的に書きましょう。スタンプもいいですね。



【資料】 個別の指導計画様式例（記載のポイント）

平成〇〇年度 個別の指導計画（前期） 新潟市立〇〇小学校					
氏名	浦山 太郎		学年	1年	
指導の形態	目標		配慮・支援方法	評価	
自立活動	友達に自分から関わりを求め、必要に応じて援助を求めたり気持ちを伝えたりできる。		<p>自立活動の目標の立て方はP21を参照。 自立活動の目標は、学校生活全般に関わる内容となる。</p>		
国語	経験したことについて順序よく書いたり、自分の感じたことを織り交ぜたりしながら日記や作文を書くことができる。				
社会			各教科の目標は、教育課程の編成に応じて設定する。		
算数	当該学年の目標に準ずる。				
理科					
音楽	楽譜を見て、自分のパートの演奏の仕方を理解し、キーボードを正確に演奏できる。		担当するパートが見やすいように色をつけたり、黒鍵に印をつけたりする。		<p>交流学級で当該学年の目標で指導している場合（準ずる教育）は、目標に到達するための交流学級での教材や活動構成、教師の働き掛けの工夫を記載する。</p>
図画工作	当該学年の目標に準ずる。		自分のイメージをもちやすいように、複数のモデルを示したり、言語化させたりしてから取り組ませる。		
体育					
道徳			<p>評価は、目標に照らしてどこまで到達したのか、どのような手立てが効果的であったかを記載する。</p>		
特別活動					
生活単元学習	同じグループの友達と協力して、自分の役割を理解し最後まで取り組むことができる。		<ul style="list-style-type: none"> ・役割の手順を示したカードを準備し、……。 ・友達への声掛けモデルを示したり……。 		<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇の活動では、友達に自分から「…手伝うよ」等の声掛けが見られるようになった。事前のモデルの効果有り。

個別の指導計画から通知票への転用例

特別支援学級では、個別の指導計画を基に子どもの学びを確認し、次学年や次学期の目標を計画しています。目的は違いますが、学期ごとに記入する場合は通知票と内容がほぼ同じですので、転用することも可能です。「個別の指導計画」「通知票」の目的の違いについてはP7を参照してください。

通知票様式例

○○○○学級 1組 児童名 ○○ ○○

各教科の学習の記録（前期）

	目 標	学 習 の 様 子 ・ 評 価
自立活動		
国		
理科		
音楽		
図画工作		
体育		
総合		
生活単元		

総合所見

個別の指導計画の「目標」からの転用
 楽譜を見て、自分のパートの演奏の仕方を理解し、キーボードを正確に演奏できる。

個別の指導計画の「評価」からの転用

個別の指導計画の項目とそろえておくと転用しやすい。



新潟市の鳥「ハクチョウ」
シンボルマーク